



## 「歓談の窓」

### 観た！ 感じた！ 市民のための2012年度西相展

「情報紙制作ワークシヨツプ」にこの西相展

感謝！

の歴史などの説明にきて  
くださり、自身も作品  
を出展している西相美  
術協会副会長の齊藤四  
郎氏は、取材時受講生  
たちに絵画の神髄を熱  
心に説明してくれた。

私たちの情報誌では  
受賞者に関係なく、好  
き勝手な主観でかい  
みた。これぞ市民によ  
る市民のためのアート  
レビュー！

(馬場)



齊藤会長の説明を聞く受講生

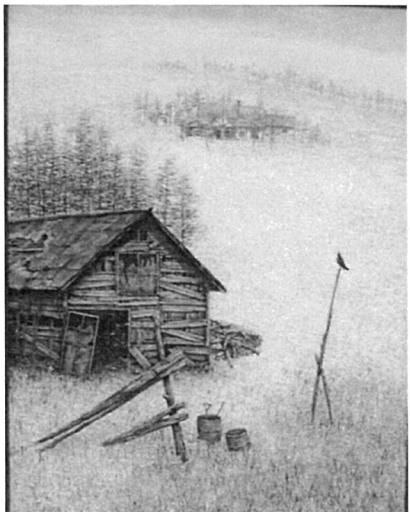
十月十三日小田原市民会館で、小田原周辺のアーティストによる絵画と彫刻作品集また西相展を見に行き、久しぶりにアートに浸つた一日。この西相展とは今回で77回といふ歴史のある本格的な展覧会で、洋画、日本画、彫刻などさまざまなかスタイルの作品が一気に觀れる。恒例の小田原市民文化祭の一環で、市民レベルの展覧会と思いきや、一流の画家の作品が所々に存在し、そのイメージがくつがえつたほどだ。

開催期間中、この団体

展では何人かの出展作家たちが、代わる代わる自分たちの作品は勿論、他の作品の説明もされていて、一般市民に少しでも自分たちの芸術の世界を身近に感じて理解してもらおうとの努力がうかがえ、うれしくなった。



森の教会・斎藤四郎作



原野の詩・鈴木房江作



秋冷のせせらぎ・小塩千恵作

## ～清々しい作品の中に秘められた情熱を感じる～

### 「絵画の部屋」 洋画

真っ先に飛び込んできた作品は、「秋冷のせせらぎ」（小塩千恵作、会員推举。美しい小川のせせらぎが聞こえてくる。びつりと色づいた木々をはうように流れる小川。その透き通ったブルーの小川が浮き上がり、その先の山々と永遠につながっているかのよう・・小川の水と一緒にさかのぼんやりとした青白い山々と永遠につながつていていきそうな感覚。これが絶妙で、すぐにこの絵画の世界に入つていい。時間があればもつとこの絵と対話したかった。

同じ場所に向かい合うようにあつた「原野の詩」（鈴木房江作）も目を引く。アメリカの人気画家、アンドリュー・ワイエスを思わせるようなカントリーな雰囲気がただよう作品。原野の雪に浮き出る荒れ果て捨てられた山小屋。この小屋は人々から見放されているはず。



彩の秋・鈴木えい子



矢倉岳の秋・中井長子作

た色使いから発せられる不思議な存在感がこちらの心を揺り動かす。作品説明もしてくださいました齊藤四郎作「森の教会」も印象深い作品の一つ。黄色を基調とし、夢の中に浮かび上がってきたような幻想的な作品。超ベテランの画家だから成熟した作品なのだろうが、なぜか初々しさを感じ、しばらく見ていると気持ちが温かくなつてくる。まわりに強い光を放つていて感じた。（馬場）

日本画では「白は使うな」とよく言われる。だが日本画では白が基礎だと言われた。日本画の表面のザラザラも気になつていたが取材でその理由がわかつたのが大きな収穫だった。日本画の絵の具、白色は蛤粉（胡粉・ごふん）を用い、絵の具として用いるための色を出す段階までの準備が大変で、そのため近頃は日本画に取り組む人が減つたそうだ。雲肌麻紙という手漉きの和紙に岩絵具という天然の石や金属土などを粉状にしたもの。

溶かした膠（にかわ・動物のゼラチン）で溶いて絵の具として塗りつける絵を日本画と呼ぶそうだ。「現代の日本画は厚塗りのものが多くなつた」とのこと。理由は「油絵などに力負けしないように」が理由のようだ。

「矢倉岳の秋」の中井長子さん、五年間、秋が来ると現地に出向き姿を心に焼きつけ仕上げたとのこと。僅か三十分で仕上げるスケッチ画しか知らない私は想像もつかない集中力だ。

（野川）

### 日本画

## 市議会議長賞受賞おめでとう

作者の「海士」への思い入れと愛情が作品に如実表現されていて・・・

加藤寿作

「海士」（あま）

市議会議長賞を受賞  
した「海士」の作品、  
作者加藤壽さん。祈り

と願いを込め、端正な  
造形美を完成させた。  
息子の出世のために海  
士が自分を犠牲にして  
亡くなり、亡靈として  
現れ、お経をあげてい  
る姿だという。息子へ  
の情念を淡淡と表現し

作者は心の中に全体  
の象を作り上げて制作  
したのだろうか。海の  
うねりにも似た衣装の  
ざわめきを見事に作り  
上げている。冠には語  
りの中に出でてくる龍を  
模し、衣装の流形に添  
つた木のうねりと木目



物語は房前の大臣  
(藤原不比等の次男で  
藤原鎌足の孫)は亡き  
母の追善供養のため隠  
岐志度の浦に着き、母  
の追善供養を営む。す  
ると母の幽霊が海女の  
姿となつて現れ、法華  
經の功德で成仏できた  
と喜びの舞を舞う。

サラリーマンをリタ  
イヤ後、始めたのでま  
だ八年足らずとのこと。  
短期間でこれほどの  
作品を仕上げたのには  
驚いた。

作品はこういう能を  
モチーフとし、仏像・  
女性像が多いといふ。  
常にめぼしい大きさの  
違う材木を4・5本手  
元に置き作品に挑むら  
しい。

今回この作品で「市  
議会議長賞」を受賞し、  
「これ以上の名誉なこ  
とはない。光栄に存じ

ます」と謙虚に喜びを表わされていた。

(馬場・野川)

作者がこれほどのめり込んだ物語がどんなものなのか気になり調べてみた。

物語は房前の大  
臣(藤原不比等の次男で  
藤原鎌足の孫)は亡き  
母の追善供養のため隠  
岐志度の浦に着き、母  
の追善供養を営む。す  
ると母の幽霊が海女の  
姿となつて現れ、法華  
經の功德で成仏できた  
と喜びの舞を舞う。

子供のためにわが身  
を犠牲にする母の姿を、  
いつの世にも共通する  
強い性格の母親像とし  
て描き、自己犠牲のい  
たましさ、母親の心  
の哀れさを語る玉取り  
伝説が基になっている。

(野川)

参考文献  
杉本苑子著

「能の女たち」より



## 高校生の窓

次世代を担う  
若者たち  
高校生の部



物語・青戸詠太・森川綾乃



模写絵・マヌル川 鈴木美央作

面白かったのは、「次代を担う若者たち」と表された高校生の作品群。アニメの影響でアニメそのものと思われる作品やセザンヌやマネなどの巨匠たちの見事な模写を見せつけてくれた。こちらに媚びることなく、素直に感じたままを表現しているのがやかさが感じられる。その明るい配色や主張のあるラインが次々に飛び込んでくると、こちらの気持ちもハイになる。この高校生の部屋全体から発せられる若く明るいエネルギーのせいなのかかもしれない。(馬場)

面白かったのは、「次代を担う若者たち」と表された高校生の作品群。アニメの影響でアニメそのものと思われる作品やセザンヌやマネなどの巨匠たちの見事な模写を見せつけてくれた。こちらに媚びることなく、素直に感じたままを表現しているのがやかさが感じられる。その明るい配色や主張のあるラインが次々に飛び込んでくると、こちらの気持ちもハイになる。この高校生の部屋全体から発せられる若く明るいエネルギーのせいなのかかもしれない。(馬場)

部屋が明るかつたこともあるが、どの作品も明るく若さに満ち溢れていた。のびのびと自由なタッチで描かれた筆先から生まれた作品は気持ちがいい。二人で合作なんて一般成人者は考えられない発想ではないだろうか。二人の感性が混じり合い他に見ない独特的の雰囲気を見る人に与えてくれる。

「模写」という禁断の世界を課題にして描かれた作品、初心者には絵の具の選び方、構図のとり方など基本の勉強には最適だと思う。原画の写真と違った全体にガスがかかれた彩色は何か意図があつてのことだろうか、これら

は西相美術協会の歴史を継承するためには欠かせない、若い美術愛好者を育成するための活動の一環と見た。(野川)

ラッキー7が重なる第77回西相美術展・作品は301点、内22点の高校生の作品が他の美術展にはない特徴、若い人たちの登竜門か!

個展の会場にはよく出かけているが、今回のようく目的を設定して鑑賞するのと漠然と鑑賞するのと後に残った心の価値観がこんなにも違うものなのかと痛感した。会場の照明が暗く、美術展の会場には不向きだつたのが残念だつた。出品者にとつてはかなりの不満があつたのではないかと思う。特に洋画は重ね塗りするので本当の色がわかりにくかつた。進行中の市民ホールの展示会場は展示物が綺麗に見える工夫をお願いしたい。(野川喜一郎)

「市民による市民のための展覧会を市民が取材する」というコンセプトのもとにこの情報紙を発行。お互いに興味を持つてこそ文化といふものは成り立つ。地域の芸術家の表現の発表の場を市民記者が支える。そのためにはもつときちんと時間をかけて取材すべきだつたと深く反省!(馬場邦子)

この度、情報紙を作成するため、取材をする立場で美術展を鑑賞するというのは、初めての経験でした。いつもと違った視点で鑑賞することとなりました。又、実際に作者に、お話を伺うと作品への理解も深まり、印象が違つてくることを実感しました。多くの貴重な経験をする事が出来ました。(千葉史乃美)

## 『編集後記』

個展の会場にはよく出かけているが、今回のようく目的を設定して鑑賞するのと漠然と鑑賞するのと後に残った心の価値観がこんなにも違うもののかと痛感した。